

駅近くの学生の居場所 づくりに関する要望書

令和2年6月

矢板市議会

1. 要望の要旨

高校生の学習及び交流場所の確保

2. 要望の背景と理由

現在、矢板市には県立高校2校、私立高校1校、合わせて3校の高等学校が存在している。他市町からの通学者も多く、3校の生徒数は総勢1,600人超となっている。

彼ら、高校生同士の交流の機会を創出することにより、若者の活力や多様性に優れたまちづくりのアイディアなどが生み出されることが期待できる。

しかし、その交流の時間や場を設ける機会は少ない。

昨年度開催した「高校生と矢板市議会との意見交換会」の中で、高校生が最も関心があったと思われるものは、「高校生の居場所づくり」である。

また、同会の中では、「自主学習をしたいが、現状、学習の場は図書館だけで、いつもいっぱい利用できない。」旨の意見も数多く上がった。

そのため、高校生の学習の場、相互交流の場として、居場所を設けることを望むものである。

少子高齢化や空き家問題等を抱える矢板市にとって、高校生の居場所づくりは、ピンチをチャンスに変える大きな力となり、ひいては矢板市の魅力発見につながるとも感じている。

「若者にとって居心地の良い矢板市」をアピールし、「子育て、教育環境の良さ」を訴えることで、交流人口の増加や移住定住の促進にもつながるものと思われる。

令和2年6月12日

矢板市長 齋藤 淳一郎 様

矢板市市議会議長 石井 侑男